教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 泉 雄一郎
編集人 森戸卓也
電話 050（3538）2346
1部7円　年定価280円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2016/1・15
No. 1898
2面

・施設で生活する子どもたち支援実践交流集会

「兵庫の教育をよくする県民署名」を提出

集約数 **257，480筆**

県議会議長・各会派、県教委に要請行動実施

兵教組は、ゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議とともに「兵庫の教育をよくする県民署名」にとりくみ、257，480筆（1月12日時点）の署名が集約された。

12月9日に集約した署名を提出し、県議会議長・県議会各会派・県教委に対して要請行動をおこなった。

また、15日には吉本副知事に対し要請書を提出し、少人数学級実現、子どもの貧困対策計画の策定、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの拡充、児童生徒支援加配などの人的支援措置の継続・拡充、高校通学区域の拡大に伴う課題の集約と検討、学校統廃合や義務教育学校について地域の声を十分に反映すること等を要請した。吉本副知事は、「全国知事会からも教職員定数については最重要課題として国に要請を上げていく。地方を元気にするためには教育を元気にしていかなければならない」と回答した。

県教委に対する要請行動

要請書を受けとる副知事

階層間格差が拡大 保護者負担も増加

12年に実施された厚生労働省の国民生活基本調査における「子どもの貧困率」は、過去最悪の16・3％と深刻な課題となっており、憲法第25条に規定されている健康で文化的な最低限度の生活を営む権利（生存権）が脅かされている現状がある。また、階層間格差が拡大する中で家庭の経済状況は厳しく、就学援助の受給率が年度ごとに増加している。兵庫県においても、02年に10・74％であった受給率が、12年には17・31％にまで上昇した。このような状況の中、保護者の雇用不安定は子どもたちの学習権の保障にも多大な影響を及ぼしている。

さらに、厳しい地方財政の現状等から、学校施設、教材費、教育情報化関係経費、安全対策といった教育条件の自治体間格差が広がり、それを補うために保護者負担が増加している自治体も出てきている。昨年度、消費税率が8％になりバス代等に関わる交通費も引き上げられたことから、学校教育についても大きな影響が出ている。

保護者・地域住民のみなさんとともに

兵庫県においては、全国に先駆けて「環境体験活動」「自然学校」「トライやる・ウィーク」「スポーツクラブ21ひょうご」等により、学校の中だけではなく、県民自らが子どもたちの教育の場に参画・協働する事業を展開してきた。わたしたちもこれらの施策を支持し、保護者・地域住民のみなさんとともに、「地域の子育て・地域の教育力」の再生と教育改革をすすめてきた。

しかし、14年度から「第3次行革プラン」がすすめられており、教育予算は年々減額され、県予算に占める教育費の割合も減少傾向にある。財政的に厳しい中ではあるが、すべての子どもたちに学習権を保障し、健やかな成長を支え、ゆたかな学びを創造することは、わたしたち大人の責務であり、これからの兵庫を担っていく人材の育成や社会の基盤づくりの観点からも、きわめて重要であると考える。

今後も、子どもの最善の利益の保障、安心して子育てできるための社会的・財政的な子育て支援、子ども一人ひとりの存在を大切にできる教育をすすめるための諸条件整備をもとめていこう。

「通学路のY字路」
西脇市楠丘小学校　六年　三木 愛生

（こどもの詩と絵　第35集より）

兵教組 2016年新春旗びらき

1月8日、兵教組新春旗びらきがラッセホールでおこなわれた。

国会・県会・市議会議員、自治体首長、連合兵庫、労働組合や福祉団体・友好団体の代表者や学者・文化人等、およそ240人の参加があった。

オープニングでは、貞松・浜田バレエ団が「セイラーズ・セイリング」等を披露。新春にふさわしい躍動感のある舞に、大きな拍手が送られた。

主催者あいさつとして泉雄一郎執行委員長は、今年7月に執行予定の参議院議員選挙にふれ、「兵教組にとっては、命運をかけた一大政治決戦だ。兵庫県選挙区『みずおか俊一』さん、比例代表『なたにや正義』さんの三選にむけ、とりくみを強めていく」と決意を述べた。

来賓を代表し、連合兵庫の辻芳治会長、井戸敏三兵庫県知事、玉田敏郎神戸市副市長、民主党兵庫県総支部連合会副代表の梶原康弘元衆議院議員から祝辞をいただいた。

みずおか俊一参議院議員は「1月4日に始まった国会では文教科学委員会に戻ることができた。この委員会を通じて兵教組に結集する教職員の仲間の現場の声を国会に届けたい」と抱負を語った。

貞松・浜田バレエ団によるオープニング

みずおか俊一
参議院議員

Lasse Hall

忘・新年会はラッセホールのお鍋でほっこり!

鍋まつり

ほっこり美味しい

予約制
2日前までにご予約ください。

※写真は豆乳鍋です。

2015年12月1日(火)～2016年2月29日(月)

国産牛のすき焼き 先付・うどん付
国産牛のしゃぶしゃぶ 先付・うどん又は雑炊付
イノブタのしゃぶしゃぶ 先付・うどん付き（ゴールデン・ボア ポーク）
神戸ポークの豆乳鍋 先付・うどん又は雑炊付
神戸ポークのカレー鍋 先付・ラーメン又はうどん又はチーズリゾット付（カレーペースト付き）
寄せ鍋 先付・うどん又は雑炊付（柚子胡椒付き）
海鮮キムチ鍋 先付・うどん又は雑炊付（辛味ペースト付き）
その他の鍋（価格はご相談ください。）河豚・ずわい蟹・鴨・など、要相談

ランチ 11:00～14:00　ディナー 17:00～21:00
※ランチは2名様以上、ディナーは5名様以上からとなります。
※日・祝の営業は18:00までとなります。但し、団体様のご利用についてはご相談ください。
※年末・年始（12月29日～1月6日）のご利用は事前にご予約ください。

前売りチケット
お一人様（税込）
¥3,500
「教育ひょうごを見た」で前売りチケット価格に！
★前売りチケットはレストラン又はフロントでご購入ください。
★チケットはレストランで金券としてもご利用頂けます。（有効期間 2016年2月29日迄）

フリードリンク（2時間制）
ビール、焼酎、ウイスキー、ハイボール、酎ハイ、梅酒、日本酒、マッコリ、ジュース、ウーロン茶、カクテル数種
お一人様 ¥1,500（税込）
※レストラン個室・宴会場の場合は、ビール・焼酎・ウイスキー・ジュース・ウーロン茶のみとなります。

特典
①女性限定特典
4名様以上のご利用でお好きなドリンク1杯またはデザートを無料プレゼント!（レストランのみ）
②前売チケットご購入で個室利用頂けます。
レストラン個室は5名様以上（ご予約先着順）
宴会場は20名様以上（ご予約先着順）

予約問合せ　レストラン リビエラ ☎078-291-1311
お問合せ時間／10:00～18:00

ラッセホール
〒650-0004 神戸市中央区中山手通 4-10-8
TEL.078-291-1117（代表）
FAX.078-291-0333
http://www.lassehall.com
E-mail info@lassehall.com
●神戸市営地下鉄県庁前駅より徒歩5分
●JR、阪急、阪神、地下鉄三宮駅より徒歩15分
●山陽新幹線新神戸駅より車で5分
●JR、阪神元町駅より徒歩8分
●高速花隈駅より徒歩15分

ROUEN
プライベートダイニングを思わせるゆっくりとした店内。ビジネスに、気の合う仲間との交流などにご利用頂けます。貸切利用も8名様から承ります。

予約制
鉄板焼き特別メニュー ¥10,000（税込）
・旬のオードブル　・本日のスープ　・季節のサラダ
・オマール海老と活帆立　・焼き野菜
・黒毛和牛ロース150g又はヘレ120g
・ガーリックライス、香の物　・果物とシャーベット　・コーヒー
12月22日(火)～12月26日(土)のクリスマス期間中は、スパークリングワイン（1本）をプレゼント!

2015年度
施設で生活する子どもたち支援実践交流集会

家族を頼れない子どもたちの自立支援～社会的養護の資源としての学校～

12月19日（土）ラッセホールで、施設で生活する子どもたち支援実践交流集会を開催した。集会には教職員をはじめ、児童養護施設関係者、スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷｒ）、教育行政関係者、兵政連議員など103人が参加した。

京都精華大学の住友剛さんをファシリテーターに、児童養護施設・泉心学園（上郡町）の高谷博之さんと加古川市立平岡小学校の浜好子さんからの実践報告、グループ討議をおこなった。

実践報告のあとのグループ討議のようす

兵庫教育文化研究所は、「子ども虐待等にかかわって、県内の児童養護施設のある分会のとりくみのネットワーク化をはかる」と提起し、07年に施設の子どもたち支援研究会を立ち上げ、西宮支部の協力を得て、とりくみをすすめてきた。

09年、新たに7地域・8支部および、施設職員を含む3人の共同研究者を加えて、施設で生活する子どもたち支援研究会を立ち上げた。

今年度は、共同研究者を新たに1人加えて7人、研究委員10人、本部5人で構成している。

第1部　実践報告・問題提起

泉心学園・高谷博之さん

昨年度実施した、08年度から12年度の5年間に児童養護施設を退所した子どもたちの実態調査の報告書をもとに話をしたい。

退所後の状況が把握できない子どもが約7割

対象者279人のうち約30％の84人から回答が得られた。連絡がつかない等の理由で70％の子どもたちの状況が把握できていないという現状も知っておいていただきたい。

児童養護施設は、ただ保護しておしまいではなく、入所する前の段階でのアドミッションケアから、社会に出て困らないために必要なことを伝えたり教えたりするリービングケア、退所した子どもの相談・援助が目的のアフターケアまでおこなう。アフターケアにうまくつなげていけるかは、子どもたちが施設で生活をしている段階で、職員との間でどれだけ信頼関係が築けているかにかかっている。職員が子どもとしっかり向き合って対応しているか、支援しているかということが大事である。

社会資源の情報提供が大切

社会に出て子どもたちはいろんな場面で困ったり壁にぶつかったりしている。ただ、そんなときに相談をする人がいるかどうか。施設には実家機能があるが、子どもとしては「これは施設に相談しにくい」ということもあるかと思う。そんな場合のために、こんなことに困ったらあんなところに相談できるんだよというように、社会資源の情報をより多く子どもたちに提供していくということも大事なのではないかと感じる。

社会に出て一番大きな問題は住むところである。寮に入っても、仕事がうまくいかなくなってやめると、住むところまで同時に失うという状況に追い込まれてしまう。その一歩手前でいかにSOSを発信できるかということも含めて、幅広い社会資源を活用したサポート体制がとれたらと思う。

リービングケアからアフターケアにつなげていくような仕事に関われる職員配置を希望する一方、社会的養護という形で学校の先生方とともに施設で生活している子どもたちを支援していけたらと希望している。

平岡小学校・浜好子さん

私たちの校区には播磨同仁学院という児童養護施設があり、平岡小学校に40人の子どもが通っている。

どこの学校でも支援の必要な子どもについて情報交換をしていると思うが、平岡小学校も「特別支援委員会」「生活支援委員会」「不登校対策委員会」等で、名前・特性・対策・経過をカルテにして共通理解をしている。また、「人権推進委員会」で学級の実態把握をおこなっている。

「心の健康チェック」

昨年この学校に来たときに、子どもたちの「心の健康チェック」を始めた。「毎日楽しいですか」「めあてを持ってがんばっていますか」「なかよしの友だちはいますか」等の6つの質問に「はい」「いいえ」「？」で答えることで、過去を振り返り、今後について考えられるものである。年間5回、同じ質問用紙で、理由も詳しく書いてもらう。裏面には「今、心にあること」を絵や文章で自由に表現できるようにした。子どもを見ているだけではまったく想像できなかったことがわかることもある。これらをデータ化して、学年あるいはすべての教職員で共有し、その子の成長を6年間通して経過観察できるように活用している。

学校と施設の連携

年に1回、家庭訪問期間中にすべての教職員が学院を訪問する日を設定している。担当者との個別懇談や、子どもたちの部屋を訪れて話もする。また、施設の職員の方が、毎日校内を巡回してくれている。なかなか落ち着いて子どもたちを指導できていないという学校現場の実状がある中、職員さんが巡回していただくと、いい報告がその子の前でできたり、騒がしい教室では、助けの神になったりしている。私も職員の方が通ってくださるたびにほっと救われるような気持ちになる。

子どもへの思いを共有する

私の小さいときに家の前に住んでいた子が同仁学院へ行っていたことや、同級生に学院の子がいたなと思い出すと、その子が言ったことやしたことがはっきりと浮かんでくる。その子に対する思いは、今の学院・学級の子に対して注がれている。子どもにかかわる者の一人として、思いを共有していきたい。

第2部　グループ討議

第1部を受けて、「自立のイメージ」についてや、教育実践、条件整備等について参加者同士で討議した。

◎子どもにつけたい力は、教職員自身やおとながつけておかないといけない力だという話になった。

◎親の愛情が得られなかった子どもたちとは、子ども同士のつながりは当然だが、おとなとの信頼関係を築いてつながることをまず大事にしたい。

◎自立とは、言葉で自分の思いを表せること。また、生理的欲求や安全の欲求が満たされることで、次第に自立へむかっていくのではないかという議論があった。

◎学力保障は当たり前だがすごく大事。学力はその子の将来の人生をずっと支えるものだ、というイメージをみんなが持つ必要がある。

グループ討議の結果を受けて、住友さんは「厚労省が出した『社会的養護の基本理念と原理』には、今日皆さんが話し合われたことを抽象的に純化した文章がまとめられている。たった3、4行で書かれていることから、学校現場や施設で具体的にどういうとりくみが自立につながっていくのか、安心して過ごせる環境をどうつくるかということを考えて実践していただきたい」とまとめた。

共同研究者の畑中通夫さんは、「兵教組は、本当にしんどい子に光が届くよう、同和教育や人権教育にとりくんできた。今後も、施設で生活する子どもに限らず、家族を頼れない子どもたちの自立支援を考えるこの会を続けて、全国に発信して欲しい」と話した。

最後に、みずおか俊一参議院議員が「現場の声を国会に届けるのが私の仕事。皆さんの生の話をぜひ文字や音声にして私に届けてほしい」と呼びかけた。

教職員共済生協の**さぽ～とプラン**で
退職金を有効活用しませんか？

ゆとりある
生活をおくりたい
あなたに

年　金
コース（年金共済／一時払契約）

おすすめプラン
受取期間　10年
一時払掛金　612.9万円
据置期間1年
10年間の受取総額　648.1万円

月額　5万円・逓増型
据置期間1年
加入
5.0万円　5.0万円　5.0万円　5.0万円　5.0万円　5.2万円　5.5万円　5.7万円　6.0万円　6.3万円
年金受取期間（10年間）

※年金の型・期間にはさまざまなタイプがあります。

退職金はセカンドライフを支える大切な資産。安全性を第一に、保障としてしっかり残すか資産として活用するかじっくり考えたいものですね。

教職員共済生協では、退職される組合員の皆さまに2つの「さぽ～とプラン」をご用意しています。退職金の有効活用にぜひお役立てください。

教職員共済

資料請求
お問い合わせは▶

教職員共済生活協同組合
兵庫県事業所

〒650-0004
神戸市中央区中山手通４丁目
１０－８ラッセホール4F

電話 (078)221-9730
FAX (078)221-1199

承 11-56-08(1112)

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧いただき、制度内容をご確認ください。